

日刊 動労千葉

84. 7. 9

No. 1684

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

「反ソ反共」「連脅威」をかなりたて、レーガン中曽根の軍拡・侵略を支持

動労本部 全国大会方針を弾劾する 40回 ぞの4

この号では、動労「本部」革マルの、内外情勢認識論の反動性、「反戦闘争」のペテン性を暴露、断罪します。
帝国主義の尖兵に代弁者として、「ソ連脅威」を唱えて侵略体制づくりに積極的に加担するばかりか、国鉄労働者を「産業報国会運動の戦士」「有事の際の鉄道輸送隊」へと変質させるために奮闘しているファシスト化した動労「本部」革マルを、今こそ怒りをもって打倒・一掃しようではありませんか。

レーガン、中曽根の「ソ連脅威」論のまるうつし

世界の帝国主義は、絶望的ともいえる危機突破をかけて、全世界的規模で侵略戦争を開始しています。それは、アメリカ・レーガンによる直接的な中東・アフリカ・中米を中心とする軍事力による侵略戦争によって明らかです。

こうした情勢認識を必死に歪曲して、米帝・日帝の「ソ連脅威」論に反ソ反共主義宣伝と同様の立場にたつて、「ソ連の侵略から国を守るためには自衛隊、米軍を認めるべきだ」との立場に転向した動労「本部」革マルを怒りをもって弾劾しようではありませんか。

内外の特徴的情勢

「テロとマルクス主義の輸出」を推し進め、いわゆる「第三世界」への勢力拡大をはかるソ連は、石油やウランなどの資源獲得戦にかちぬくという悪感をもたせてアメリカにたいする核軍事力の増強を世界各地で起こしています。

これにたいして、アメリカ・レーガン政権は、強いアメリカを旗印に、核戦力のいっそうの強化をはかることはいまでもなく、ソ連の進出を阻むために通常戦力の増強とその機動力を高めながら、対ソ核軍事包囲網をよりいっそう強化してきています。

アメリカ・レーガン政権は、ソ連がSS20などの中距離核ミサイルを極東において急速に配備・増強していることに対抗して、対ソ核軍備増強のすめ方をめぐる米支配者内の対立を生み出しつつも、六月から米第七艦隊に核弾頭を装備できる海洋発射巡航ミサイル・トマホークの配備を順次進めています。

ところでここに、ソ連は戦闘爆撃機バックファイアーやミグ23・31をベトナム基地に配備し、太平洋・インド洋の制海能力をたかめつつあります。この動向にたいして、有事の際にソ連太平洋艦隊をオホーツク海に封じ込め、海上輸送路を確保すること、つまりシーレーン防衛や四海峡封鎖の共同作戦を展開しようとする米日韓の軍事同盟体制を確立・強化しようとしているのがそれぞれの権力者なのです。

「一切の悪の根源は、テロと侵略と軍拡のソ連にある。」レーガンや中曽根はこれにたいして「ソ連はソ連にたいしては」と帝国主義者を全面擁護する動労本部革マル。CIA、勝共連合頼りの反ソ反共主義！

うではありませんか。

彼らの「方針書」の「内外情勢」は、「ソ連の侵略主義に一切の原因がある」とし、米帝や日帝は「それに対抗して、軍備拡大をする」と意図的に歪曲してえがきだし、帝国主義の凶暴な侵略・軍拡・戦争行為を全面的に擁護する反動的なデマ宣伝で埋めつくされているのです。

あげくのはては、ソ連の政策は「テロとマルクス主義の輸出」とのレーガンやCIAの反共宣伝の言葉まで借りてきて、日本はもつとソ連に近いのだからソ連からの侵略の脅威が第一の危機だ、と煽動しているのです。

さらに「方針」は、帝国主義権力の「強大さ」に恐れ屈服し、逆に同調者として、「ソ連の核軍拡」こそが、現在の『世界軍事的緊張』の第一要因である」としています。動労「本部」革マルは、レーガンや中曽根の宣伝を口移しに、「ソ連のSS20中距離核ミサイルに「対抗」するものとしてトマホークが配備される」とほえたてているのです。これでは、右翼勝共連合となんら変わらぬ反動集団といつても決して過言ではありません。

（※これこそ典型的な米帝・日帝擁護トマホーク歓迎論に他なりません。そもそも、トマホークは、ソ連領内に隠密裡に深く侵入し軍事目標を「先制第一撃」で攻撃するために開発されたものであり、弾道型ミサイルであるSS20に「対抗する」という主張は目的、軍事技術的にも完全なデマであることは明白なのです）

ここにいたっては、日帝・中曽根に身も心もささげて「ソ連が攻めてくる」から、「国を守るための軍事大国化」、そのための中曽根の「諸政策」なのだから、国民はそれに従うべきだ、と主張しているのです。

「安保」「自衛隊」を認め、軍事大国化の率先推進者に転落

これこそ、国鉄における「国鉄を国鉄として維